

講義コード		科目区分	専門教育科目
(フリガナ)	ソツギョウケンキュウシドウ	(フリガナ)	タカハシ ノリオ
授業科目名	卒業研究指導	担当教員名	高橋 憲夫
英文授業科目名	Seminar of Thesis		
基準年次(開講期)	4年(通年)	履修形態	必修
曜日/時限/講義室	火3限/池袋		
授業の方法	演習	授業の方法 (詳細情報)	演習
単位	4	週時間	4
授業のキーワード	4年間、あるいは2年間の勉強の成果。日本留学の集大成。		
授業概要・目的	卒業研究、卒業論文の完成を目標とする。一定程度、卒業研究、論文として認められる水準に到達するために、個別指導を含むゼミナール方式で進めていく。		
到達度評価の評価項目	完成した研究論文への評価。卒業研究発表会での発表、質疑、試問への対応も評価の材料とする。		
授業計画			
(前期)第1回	ガイダンス：演習の進め方、年間スケジュールの案内。履修登録への援助。学費分納手続きへの援助。 履修希望者に対する基礎的能力診断テストの実施。		
第2回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 1. 論文及び論述文		
第3回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 2. 構成 序論・本論・結論の三段構成		
第4回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 3. 構成 起・承・転・結		
第5回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 4. 序論あるいは前書き：テーマの視点及び意義		
第6回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 5. 本論と節		
第7回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 6. 本論Ⅰ テーマの背景(時代と社会)		
第8回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 7. 本論Ⅰ 第一節 テーマの背景(政治体制)		
第9回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 8. 本論Ⅰ 第二節 テーマの背景(経済システム)		
第10回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 9. 本論Ⅰ 第三節 テーマの背景(社会状況)		
第11回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 10. 本論Ⅱ 第一節 テーマそのものの紹介 (作家及び作品)		
第12回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 11. 本論Ⅱ 第二節 背景となる芸術の潮流		
第13回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 12. 本論Ⅱ 第三節 特筆すべき事項 (直接影響を与えた存在)		
第14回	結論記述の試み (これまでの記述を前提にして論じられることをまとめてみる)		
第15回	まとめ：前期で可能な限り論述を形にする。そこから問題点を明確にし、後期に向けて再度、資料収集とその解析、論述への取り込みを試みる。		
教科書・参考書等	『美学辞典』竹内敏雄監修 弘文堂 『美学総論』竹内敏雄 弘文堂 『美学 上下巻』大西勝禮 弘文堂		
授業で使用する機器等	P.C. インターネット DVD、Blu-rayなどの視覚教材		
予習・復習へのアドバイス	毎回、課題は必ず提出して他の学生同士議論をし、その復習を通して研究を深めていく。		
履修上の注意・受講条件等	選抜試験合格者。専門演習の成績「優」取得者。研究、論文の構想ができており、すぐに研究に取り掛かれる者。		
成績評価の基準等	卒業研究、論文 70%、研究発表及び質疑、試問への対応 30%		
メッセージ	日本の大学で学んだということを卒業研究の成果で示してほしい。		
オフィスアワー	講義担当日の最初と最後の担当科目の前後一時間は、研究室に居ます。但し、5限終了後は例外で、帰宅します。		
その他	今年度は少数精鋭のゼミを目指します。論文作成のための毎回の作業がありますので、遅刻、無断欠席は認めません。それを承知した上での履修であり、年度途中の変更は認められません。		

講義コード		科目区分	専門教育科目
(フリガナ)	ソツギョウケンキュウシドウ	(フリガナ)	タカハシ ノリオ
授業科目名	卒業研究指導	担当教員名	高橋 憲夫
英文授業科目名	Seminar of Thesis		
基準年次(開講期)	4年(通年)	履修形態	必修
曜日/時限/講義室	火3限/池袋		
授業の方法	演習	授業の方法 (詳細情報)	演習
単位	4	週時間	4
授業のキーワード	4年間、あるいは2年間の勉強の成果。日本留学の集大成。		
授業概要・目的	卒業研究、卒業論文の完成を目標とする。一定程度、卒業研究、論文として認められる水準に到達するために、個別指導を含むゼミナール方式で進めていく。		
到達度評価の評価項目	完成した研究論文への評価。卒業研究発表会での発表、質疑、試問への対応も評価の材料とする。		
授業計画			
(後期)第1回	ガイダンス：演習の進め方、年間スケジュールの再確認。履修登録への援助。学費分納手続きへの援助。		
第2回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 1. 註(注)について。引用、語彙の説明、本文で述べている部分の詳細あるいは補足。		
第3回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 2. 引用の仕方。		
第4回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 3. 語彙、用字用語の解説、概念の説明など。		
第5回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 4. 序(序論、前書き)の執筆		
第6回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 5. 後書き(エピローグ)を付記する場合		
第7回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 6. 図版、データの挿入の仕方。		
第8回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 7. 参考文献、参考資料の一覧作成		
第9回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 8. 目次の作成		
第10回	論述文、卒業論文の構成及び構成要素について 9. 論文規定の確認：表紙、タイトルの中表紙、フォントなど。		
第11回	発表用レジュメの作成。		
第12回	これまでのパーツを構成プランに合わせて擦り合わせ、論文を完成する。		
第13回	ゼミナールの中で発表し、学生間で質疑応答、議論を試みる。その1		
第14回	ゼミナールの中で発表し、学生間で質疑応答、議論を試みる。その2		
第15回	ゼミ担当教員からの講評。その指摘を基に、卒業研究発表・口頭試問の準備をする。		
教科書・参考書等	『美学辞典』竹内敏雄監修 弘文堂 『美学総論』竹内敏雄 弘文堂 『美学 上下巻』大西勝禮 弘文堂		
授業で使用する機器等	P.C. インターネット DVD、Blu-rayなどの視覚教材		
予習・復習へのアドバイス	毎回、課題は必ず提出して他の学生同士議論をし、その復習を通して研究を深めていく。		
履修上の注意・受講条件等	選抜試験合格者。専門演習の成績「優」取得者。研究、論文の構想ができており、すぐに研究に取り掛かれる者。		
成績評価の基準等	卒業研究、論文 70%、研究発表及び質疑、試問への対応 30%		
メッセージ	日本の大学で学んだということを卒業研究の成果で示してほしい。		
オフィスアワー	講義担当日の最初と最後の担当科目の前後一時間は、研究室に居ます。但し、5限終了後は例外で、帰宅します。		
その他	今年度は少数精鋭のゼミを目指します。論文作成のための毎回の作業がありますので、遅刻、無断欠席は認めません。それを承知した上での履修であり、年度途中の変更は認められません。		